［共同研究］

中国の経済発展と産業集積に関する開発経済学・空間経済学・国際経済学の観点からの融合的研究

共同研究者

代　表　辻　　忠　博（日本大学経済学部教授）

本　多　光　雄（日本大学経済学部教授）

呉　　逸　良（日本大学経済学部准教授）

陸　　亦　群（日本大学通信教育部准教授）

井　尻　直　彦（日本大学経済学部准教授）

はしがき

当研究チームは，過年度における経科研共同研究において構築された経済活動の空間的分布に関する理論的フレームワークを（『紀要』36号を参照），中国および中央アジアを含む新シルクロード地域に適用し，そのフレームワークの妥当性と適応性を検証した．過年度の共同研究では，産業集積が一国内で生じる理論的根拠を示し，中国沿海部の三都市を事例に産業集積の実態と経済実績の格差との関わりについてケーススタディを行った．今回の共同研究では，同フレームワークに基づく開発戦略を「ビーズ型」開発戦略と命名し，この戦略が新シルクロード地域において経済発展の実績を上げるための政策的措置について検討した．以下，執筆順に共同研究の成果論文を要約する．

本多論文は，中央アジア諸国をめぐる貿易動向に焦点を当て，特に日本，中国，韓国との間の国際貿易における特徴を詳細な貿易データに基づいて浮き彫りにしている．その結果，日本と中央アジア諸国間の貿易は旧来の垂直的な分業関係であり，日中間で見られるような水平的分業関係は見出せないことが明らかにされた．

呉論文は，経済活動の空間的側面と輸送コストとの関わりについて分析している．それによると，新シルクロードにおける経済発展の空間的特徴は「ビーズ型」産業都市群として現れることが理論的に明らかにされたが，未整備な陸上輸送など多くの障害のために実現には至っていないことが明らかにされた．また，新シルクロード地域の経済的繁栄のためには共存共栄が実現できるように国際協調が求められるとも結論づけている．

陸論文は，「ビーズ型」開発戦略をいかに構築するかについて検討している．同論文では，「ビーズ型」開発戦略の理論的根拠を三部門経済発展モデルの観点から明らかにした上で，具体的に同戦略を進めていくためには，政策パッケージをグローバル・スタンダードで行うことを通じて，市場メカニズムに基づく経済活動を前提としながらも，一時的な政策的誘導を有機的に結合することが重要であると強調している．

辻論文は，「ビーズ型」開発戦略に基づく経済発展の可能性を展望している．同論文では，従来のイ

ンフラ整備というハード面での整備に加えて，地域経済協力を促すようなソーシャル・キャピタルを創造することを通じたソフト面での取り組みが重要であると結論づけている．

井尻論文は，中央アジア諸国に対する海外直接投資の動向を明らかにし，直接投資が発生する要因を理論的に検討した上で計量分析を行っている．それによると，経済規模などの要因よりもむしろ地理的要因や要素賦存状況が企業の意思決定に大きな影響を及ぼしていることが明らかにされている．

最後に，共同研究費の補助に対して深謝すると共に，読者諸賢のご叱正を乞う次第である．